

セオリーの裏を敢えて突くことで  
独自のスタイルが実現できる！

リムとディスクを通常と逆向きに組み合わせることで、大口径感を強調できるリバースリム。通常モデルと仕様を変えたモデルを展開するのがバックレーベルだが、それはまさに「裏メニユー」と言えよう。

■PHOTO: 浅井兵男 ■TEXT: 空野稜



## BACK LABEL ZEAST BST1

**WORK** TEL ★ 06-6746-2859 (西日本コールセンター)  
URL ★ <https://www.work-wheels.co.jp>

■ THANKS : dc601 Tel. 075-748-6120 <https://dc-601.com/>

「アメ車に乗るなら、アメリカブランドでカスタムしたい!」と考えるユーザーの mindset は痛いほどよく分かる。だがいつ届くか分からない納期、とてつもない円安とアメリカ国内の物価上昇もあって、パーツ価格はかつての倍以上だと言っても過言ではない。現実的な話をするのは憚られるが、「その予算があるのであれば国産の2ピースホイールが手に入る!」と、様々なカスタムカーを製作し続けて来た京都のdc601・廣井社長は語る。

そんな廣井さんがエクスプローラースポーツトラックに選んだホイールは、WORKの

BACK LABEL ZEAST BST1だ。通常モデルのZEASTは「段リム」と呼ばれる形状となっており、例えば20インチホイールであってもディスク部分は19インチとなる。それに対しBACK LABELではリバースリムを採用するので、より大きな開口部が実現可能。今回ピックアップしたBST1は通常モデルよりもスポークは若干短いものの、奥行を持たせることで圧倒的な存在感を醸し出している。

タイヤやアルミホイールは愛車のキャラクターを決定付ける重要なパーツであるし、他のオーナーとは差別化を図りたいもの。また2ピース

構造ゆえに、豊富なインセットを設定。またピասポルトやエアバルブのカラー色変更も可能なので、コダワリ抜いた愛車にベストな組み合わせを製作可能だ。

なお、このエクスプローラースポーツトラックには、今後オーバーフェンダーの装着を計画中。カスタムに精通したプロショップの場合、先にホイールを決めその後ボディメイクを行うことで、理想のラインを作り上げることができる。チョイスしたアイテムだけでなく車両の製作方法まで、いろいろな意味で「逆」の発想が凝縮された1台だと言えるだろう。



通常モデルよりもリムが深く取れるのが魅力。リム部分に段差がないため、開口部の大きさと深さをより一層際立たせてくれる。全体的にブラック基調であるが、それぞれのトーンが異なり、立体感を主張している。

- サイズ  
10.5J×20、-51  
(20mmスパーサー使用)
- カラー  
ディスク: フリリアントシルバーブラック  
リム: ブラックアルマイトリム
- オプション  
ブラックピասポルト、ブラックエアバルブ